

巻頭言

北海道支部長の故杉浦忍氏は令和 2 年 4 月 7 日天に召されました。ここに永遠の安息をお祈り申し上げます。

杉浦支部長を追悼して!

事務局長 澤口 勇治

私が、杉浦さんと初めてお会いしたのが、2015 年 5 月 28 日 出身地である苫小牧信金本店で開催されたコンサートです。そのとき、当時の事務局長と私共夫婦(妻が ALS 患者)が 100 名を超える観客と楽しいひと時を過ごしました。

杉浦さんはピアノ調律師で、奥様と「ぎすはーコンサート」を定期的に企画、開催し、その売り上げの一部を北海道支部に長らくご寄附いただきました。予算の乏しい北海道支部としては大変助かりました。

杉浦さんが、北海道支部長に就任したのが、2018 年 6 月で、二年にも満たない期間でしたが、2019 年の社員総会には代議員として出席し、他支部の皆様と交流した旨の報告を頂戴しました。又同時期に浜松市で開催されたピアノ調律師技術向上世界大会に参加した際、静岡の ALS 患者 M 氏宅を訪れ交流を図ったと地元の新聞に紹介されました。

この時、ALS 患者の M 氏はお礼の手紙で

『この度は杉浦様にもお会い出来、本当に音楽が好きで良かった。僕の口癖、「呼吸器付けて良かった。生きていて良かった。幸せな人生です。ありがとう〜。』と綴っています。

杉浦さんと交わした最後のメールは 4 月 5 日の夕方です。新型コロナウイルス感染症患者が増大するなか、運営委員会の変更などをご相談申し上げていました。ところが二日後の夜、奥様が奏でるピアノの音色で満 61 歳の人生を閉じられたと伺いました。杉浦さんの願いは全ての ALS 患者が、病と闘う中で患者同士連帯することでした。

どうぞ、安らかな眠りを役員一同お祈りいたします。アーメン

2017年7月15日（土）下川町のフレペで開催された「ぎすはーコンサート」が紹介されたホームページから～～

ピアノ調律師・杉浦忍さん、ピアノ演奏者・杉浦暖さん、クラリネット演奏者・吉田聖子さんによるぎすはーコンサートを7月15日（土）開演いたします。

ぎすはーって何の由来だろう？と思った方、「ぎす」は、調律師の杉浦さんの杉を逆にしたもの、「はー」は名前の忍の「し」を音階の「シ」とし、ドイツ語の発音で「ハー」と発音することを表現した名になります。

杉浦さんは新ひだか町生まれの苫小牧育ち、札幌在住の方です。杉浦さんは、2014年ALS（筋萎縮性側索硬化症）という難病を発病しました。進行性の病気で運動障害・会話ができなくなる・進行すると呼吸困難など現在では治療法がない病です。

コンサートを開演するにあたり病の事も知っていただこうと演奏披露の他自ら病の事も語ったコンサートも。

今回は以前杉浦さん取材した下川町在住の元新聞記者で現在塾講師の女性とのご縁により、フレペで開演することが実現しました。

入場料は無料です。ドリンクはフレペ受付で取り扱います。

ぜひ、ご都合の合う方はフレペへお早目にお越しください。